

みんなで守ろう、わたしたちの道

道サポ

vol.2 「道サポ」体験見学学習会 開催!

私たちが普段利用している道路や橋、トンネルなどは、きちんとメンテナンスをしなければ、老朽化します。自分たちが使うものだからこそ、もっと詳しく知りたいと思いませんか? 普段どのようなメンテナンスをして橋を守っているかを、専門家の話と現地での体験見学を交えてわかりやすく教えます。みんなで守ろう私たちの道路。ぜひ参加してください。

とき **平成26年10月26日(日) 13:30~16:30**

ところ **大分合同新聞社 および国道10号府内大橋** 内容 **橋などの施設の維持管理についての講演と府内大橋の体験見学**

定員: 50名(先着順) 対象: 小学生以上

締め切り: 定員に達し次第締め切り ※当選者には参加証をお送りします。

講師: 日野 伸一氏(九州大学副学長・工学研究院 社会基盤部門 環境設計材料工学教授) ほか

応募方法: はがきまたはインターネットから申し込み

〈お申し込み・お問い合わせ先〉

〒870-8605 大分市府内町3-9-15

大分合同新聞社コミュニケーション開発局「道サポ」係り

〈Webサイト〉 <http://www2.oita-press.co.jp/michisapo/>

※お問い合わせは同事務局まで TEL.097-538-9646(平日午前9時から午後5時)

主催: 国土交通省 大分河川国道事務所 共催: 大分県道路メンテナンス会議、大分合同新聞社



昭和37年頃の府内大橋



現在

大分川に架かる大分市畑中地区と宮崎地区を結ぶ「府内大橋」。昭和35年に開通したこの橋は、九州ではじめての軽量鋼を使用した当時は珍しい橋で、当初は、片側1車線の道路でしたが、混雑のはげしい交通渋滞を解消する目的で昭和55年に新橋が併設され片側2車線となりました。

現在、橋やトンネルは、国が定めた統一的な基準により、5年に1度近接目視による点検で健全度を診断した上で、計画的に修繕などの措置が行われています。「点検、診断、措置、記録」のメンテナンスサイクルを確実にを行うために、関係者が連携するための体

制構築や人材育成、技術開発などが始まっています。

今年で54才と34才になった府内大橋の1日の車の交通量は約5万3千台。新たな技術を活用したメンテナンスや、安全確認などの積み重ねによって、今も県民の暮らしを支えています。

身近な道や橋、トンネルが、これからも安全安心快適に利用できるよう、メンテナンスサイクルを持続的に回すとともに、私たちもできることから取り組んでみませんか? まずは、体験学習会に参加して、メンテナンス方法や自分たちでできる実践方法などを一緒に学びましょう!

みちのこぼれ話



大分県道路メンテナンス会議

道路管理者の連携を図って、円滑で効率的な道路の維持管理につなげようと、国、大分県、県下18市町村と西日本高速道路で構成される「大分県道路メンテナンス会議」が5月26日に発足しました。

日本の道路は、昭和30年代後半の高度経済成長期に集中的に整備され、老朽化が進んでいます。一方で、道路の大半を管理する自治体は、財政状況が厳しく、点検や修繕のための人材も不足しているのが現状です。実態を把握した上で確実にメンテナンスをしていくためには、交通上密接な関連がある。各管理者が、点検や修繕計画の情報を共有し、連携して対応することが重要となります。会議を通して、関係者相互の情報を共有し、各種支援制度の活用、調整を図ることによって道路施設などの老朽化対策を強化していきます。

インターネットの特設サイトでは「道路検定クイズ」「みちのこぼれ話」などもっと詳しい情報を見ることができます。ぜひご覧ください。

<http://www2.oita-press.co.jp/michisapo/>

〈道サポ事務局〉大分合同新聞社 コミュニケーション開発局 イベント事業二部内「道サポ」係 TEL.097-538-9646(平日9:00~17:00)



九州地方整備局
大分河川国道事務所 道路管理第二課 TEL.097-544-4167

道サポ 検索